

リコーダーアンサンブルにおける器楽演奏

千葉県立〇〇高等学校 〇〇 〇〇〇 (音楽)

1 はじめに

本校は、1 学年理数科 1 クラス、普通科 7 クラスである。一年次は音・美・書からの選択で、二年次は文型 4 クラスが芸術Ⅱを選択し、三年次は国・社・数・芸・英・心理学の中から選択する。芸術が 1 年で終了する生徒もいる。ほとんどの生徒が進学を希望し、学習・部活動・学校行事等、何事にも全力で取り組み、活気ある学校である。

本校には昨年度赴任し、教科研究員のお話を頂き何が出来るか検討した。初任から取り入れていたソプラノリコーダー(SR)・アルトリコーダー(AR)のアンサンブルから発展させ、テナーリコーダー(TR)・バスリコーダー(BR)が学校にある程度揃っていることや、真面目に取り組む生徒が多いことからSATBのリコーダーアンサンブルに決定した。アンサンブルを通して、他者とのかわりに留意し、演奏・アンサンブルの楽しさを味わい、音楽表現の工夫を考え、クラス全体でハーモニーの美しさを共有し合いたいと考え研究とした。

2 研究方法

- (1) 実践1 独奏曲を演奏することにより、リコーダーに慣れ、音色を味わう。
- (2) 実践2 SAのアンサンブルを通して、アンサンブルの楽しさを味わう。
- (3) 実践3 テナーリコーダー・バスリコーダーを加え、アンサンブルの表現を工夫する。

3 研究内容

実践1 独奏曲を演奏することにより、リコーダーに慣れ、音色を味わう。

(1) 基礎練習

ア 小・中学生時代に学習したSR・ARで授業を進める。運指が違うので、リコーダー毎に行う。

ハ長調の音階で、ノンレガート奏法、レガート奏法、スタッカート奏法のアーティキュレーションの練習をする。

(留意点) リコーダーに対して苦手意識を持っている生徒は少なくないので、音域が広いと吹くことを止めてしまう場合もある。その時は、音域を狭め、時間をかけて音階練習させる。まだこの段階では、アーティキュレーションの意識が薄いので、常に意識するように声掛けをする。

(2) 独奏曲

ア「Air」 CDEFGの5音のみで演奏出来る曲である。

- ・SRは左手の穴をふさぎ右手だけで、ARは左手だけで演奏出来る曲を選曲した。
- ・リズム、タイを確認する。
- ・最初はスラーを省き、ノンレガート奏法で演奏する。
- ・強弱をつけて演奏する。息の入れ方を確認する。

(留意点) SRの最低音のC(一点ハ音)が出しづらい生徒がいる場合には、しっかりふさ

A i r

- ・ARのAHCの運指とサミングを確認する。

・先に独語歌唱しておりメロディーは理解しているので、フレーズを感じて演奏させる。

(考察) リコーダーに苦手意識を持っていた生徒は、既習曲を演奏出来たことにより、少しずつリコーダーに自信がついてきた様子が見られる。

HEIDEN RÖSLEIN (野(25)



ウ「ぶんぶんぶん」 B (シ♭) の運指を覚える。

- ・ハ長調ではなく、ヘ長調を用い、B♭の運指を覚え、曲の幅をひろげる。
- ・ヘ長調のF G A B Cの5音を練習する。
- ・テンポは遅い→速いで練習。運指にも慣れてくると、速いテンポで演奏出来るようになる。

(留意点) 運指に戸惑う生徒が多い。SRとARで左右違うが、人差し指と薬指の穴をふさぐ運指が難しいようである。ARはサミングも加わり特に2段目が難しいので、2段目だけを繰り返したり、リズムを変えて練習する。前回と比較したり、今回はこの速さで、というように各々、目標を持たせた。

(考察) B♭の運指・サミングにも慣れ速いテンポで演奏出来るようになると、楽しそうに演奏している姿が見られる。



エ「静かな湖畔」 B (シ♭) の運指の確認、スタッカートの練習をする。

- ・延ばす音以外はスタッカート奏法で演奏する。タンギングせず、スラー奏法で吹いている生徒がいるので注意を促す。
- ・左右の生徒とカノンをして、相手の吹き方を参考にし、楽しむ。

(留意点) スタッカートが出来ていない生徒がいるので、この曲に対しては常にスタッカートを意識させる。スタッカートが出来ない生徒や、スタッカートを意識するあまり、延ばしたい音もスタッカートにしてしまう生徒には歌わせる。

静かな湖畔(ROUND)



実践2 SAのアンサンブルをし、アンサンブルの楽しさを味わう。

ア「山の音楽家」 ARの二重奏曲だが、主旋律をSRが吹き二重奏する。初めてのアンサンブルに関心を持たせる。

- ・ARも主旋律と同じリズムであることを確認し、アンサンブルを楽しむ。

(考察) リコーダー・運指に慣れ、積極的に取り組む姿が見られる。お互いのメロディーを聴きあい、アンサンブルを楽しんでいた。

山の音楽家



イ「木星」 SAAの三重奏曲である。

- ・メロディーは世界中の多くの人に愛されており、皆聴き慣れていると思い選曲した。
- ・ARからメロディーが始まり、和音を感じることができる曲である。
- ・SRは上CからDEFGAの音が出てくるので、運指・タンギングを確認する。
- ・3拍子、かつアウフタクトでメロディーが入るので、2段目以降のARの入りに注意を促す。

(留意点) ARは2パートあり、ARに不安な生徒もいるので、まずAR 2パートから練習を始めた。それからAR 1パートを練習し、AR 1パートが難しいと感じる生徒はAR 2パートを確実に演奏出来るよう練習させた。SRは1パートしかないが、高音のサミング・タンギングに戸惑う生徒が多かった。アンサンブルをすると、アウフタクトで入るSRパートと一緒にARが加わってしまった。パート練習の時に注意を促すとともに、アンサンブルの時には、メロディーを聴き、三拍子を感じるように意識させる。ノンレガート奏法で吹けず、スタッカートに近い奏法で吹いている生徒に対しては歌わせる。

木星
Jupiter
Andante maestoso
ガスタープ・ホルスト作曲・藤原真由子編曲

ウ「愛のあいさつ」 SAAの三重奏曲である。

- ・エルガーの作品の中で有名な曲であり、優美な曲想である。横の流れを感じてアンサンブルを楽しみたい。
- ・AR演奏者が極端に少ないクラスや、運指やメロディーに戸惑う生徒などに対しては、AR奏者はAR 2, AR 1の順で練習させる。低音の運指を覚え、音域を広げる。

(留意点) SRのメロディーは、音域も広いので、臨時記号の運指、音の高低差、サミングなどに戸惑う生徒が多く見られた。AR 2については、H（一点口音）（楽譜上では口音）の運指を確実にし、低音部の支えを意識させた。優美なメロディーを気に入った生徒もいるが、一方で、曲の長さや臨時記号の多さなどから、満足に曲を仕上げられなかった生徒もいる。この曲は長いので、初めの2段を中心に演奏しても良い。

愛の挨拶
Salut d'amour
Andante
エドワード・エルガー作曲・ハル・博典に編曲

エ「さんぽ」 SS(A)A(T)の三重奏曲である。

- ・ジブリ映画の有名な曲であり、かけあいを楽しみ、アンサンブルする。
- ・SRは2パート演奏する。ARは1パートだが、既に既習したB（シ♭・二点変ロ音）に加え、B（シ♭・一点変ロ音）の運指を覚える。

(考察)アクセントの奏法、ARの低音の運指、SRのサミングに戸惑う生徒もいるが、耳になじんでいる曲ということもあり、アンサンブルの楽しさを少しずつ感じられるようになってきている。



オ『アンサンブルテスト』 「木星」「愛のあいさつ」「さんぽ」から選曲し、グループ・パートを決め、発表会形式でアンサンブルテストを行う。

- ・各グループのパートのバランスを保つため、一人が何回も掛け持ちをして、演奏することもある。
- ・各パート毎に生徒を集め、留意点を生徒一人一人確認し、アドバイスをする。

アンサンブルテストの感想（一部）

- ・パートの人数によって、曲のイメージが変わる。
- ・メロディーも大事だが、アルトリコーダーの低くて深い音がとても大事。
- ・ソロとは違い、色々な音が聴こえ、周りの人に合わせて演奏することは難しい。
- ・友達の演奏を聴いて、自分たちの足りない所を見つけられた。
- ・アンサンブルテストは緊張するが、ハーモニーも感じられ楽しかった。
- ・練習をすればするほど上手くなっていき、やりがいを感じた。

実践3 TR・BRを加え、それぞれの特徴に関心を持ち、音楽表現を工夫して演奏する。

- ・SR奏者はTRを、AR奏者はBRを扱う。(SR・TRとAR・BAの運指が同じ為)
- ・TRについては、音階練習をし、音程に気付かせ、ジャーマン式とバロック式による運指の違いを理解させる。
- ・SR、ARの音色やタンギングの違いを感じとらせる。

ア「フィンランディア」SATBの四重奏曲である。

- ・SR、AR、TR、BRの4パートに分かれる。手の大きさにTRが難しい生徒は、SRを演奏する。人数のバランスに気を付ける。

フィンランディア

Moderato

シベリウス 作曲 河野保郎 編曲

S
A
T
B

(または別部合唱、マホーゲン)

(考察) 昨年度は、TR・BRの特徴をつかむのに時間がかかり、また、曲も長いことから最後まで演奏出来ず、アンサンブルを楽しめなかった。今年度は、「木星」四重奏（SATB）（河野保郎 編曲）を選曲した。1時限目はリピート前までを練習し、アンサンブルをした。三重奏との違いを感じる生徒が多く、積極的に取り組んでいた。2時限目は最後まで演奏し、リコーダーの音色や奏法の特徴に関心を持ってアンサンブルを楽しんでいた。

木星のテーマ

組曲「木星」から

Andante maestoso

ホルスト 作曲 河野保郎 編曲

イ「ピタゴラスイッチ」SATBの四重奏曲である。

- ・NHK教育テレビの番組で流れており、知っている生徒は多い。
- ・SRにプラルトリラーがあるが、積極的に取り組んでいる生徒が多い。

(考察) TRやBRに興味を持ち、積極的に演奏する生徒がいるが、この曲に関しては、メロディーを演奏したくてSRに持ち替える生徒が少なくない。中低音が弱くなると和音が感じられなくなるので、全体のバランスを考え、各パートの人数を調整する。軽快なテンポなので、SRパートは速い運指についていこうと一生懸命練習している。SR以外のパートには、タンギングを身に付け、どのように表現・演奏するかを考えるよう促す。

ピタゴラスイッチ

© 2004 by Japan Copyright and Publishing Co., Ltd.

TR、BRの演奏・鑑賞を通しての感想（一部）

- ・穴の間隔が広く、長いので指が見えなくて難しい。
- ・ARと同じ運指だが感覚が全く違った。
- ・落ち着いた音、温かく深い音、優しい音、音色がきれい。
- ・音を出すのが難しいからこそ、音が出ると嬉しい。息をしっかりと入れないと音が出ない。
- ・アンサンブルをすると、4つの楽器がそろっていい。
- ・バスの支えた感じが安定感を感じられる。

芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案

千葉県立〇〇高等学校

教諭 〇〇 〇〇〇

- 1 日 時 平成26年10月20日（月） 第3限
- 2 学 級 1年CD組（男子14名、女子12名、計26名）
- 3 学級観 静かなクラスではあるが、授業に対して、全体的に落ち着いて、意欲的に学習に取り組んでいる。歌うことは大好きであるが、リコーダーに対して苦手意識をもつ生徒もいる。しかし、教え合い、協力しながらアンサンブルを楽しもうとしている。
- 4 題材名 リコーダーアンサンブル
- 5 教材 独奏「Air」 河西保郎 作曲
独奏「野ばら」 ウェルナー 作曲／河西保郎 編曲
独奏「ぶんぶんぶん」 ボヘミア民謡
独奏「静かな湖畔」 外国曲
二重奏SA「山の音楽家」 ドイツ民謡／江口泰央 編曲
三重奏SAA「木星」 ホルスト作曲／橋本祥路 編曲
三重奏SAA「愛のあいさつ」 エルガー 作曲／八木澤教司 編曲
三重奏SSA「さんぽ」 久石譲 作曲／菊地雅春 編曲
四重奏SATB「フィンランディア」 シベリウス 作曲／河西保郎 編曲
四重奏SATB「ピタゴラスイッチ」 栗原正己 作曲／金子賢治 編曲
- 6 指導事項 「A 表現」（2）
イ 楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。
ウ 様々な表現形態による器楽の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。
エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して演奏すること。
- 7 題材の目標 リコーダー演奏を通して、楽器演奏の楽しさ、アンサンブルの楽しさを味わうとともに、ハーモニーの美しさを感じ取り、音楽表現の工夫を考える。
- 8 題材について
 - (1) 題材観 小・中学生時代にソプラノ・アルトリコーダーを学習してきており、更なる高度なアンサンブル演奏を行うことができる。そこで、本題材では、ソプラノ・アルトリコーダーに加えて、テナー・バスリコーダーを扱い、奏法の違いを感じさせるとともに、音楽表現を工夫して演奏させたいと考え、設定した。
 - (2) 指導観 これまで、芸術歌曲を歌う学習を通して、その音楽表現について学んできた。また、合唱の学習を通して、ハーモニーの美しさ、詞と音楽の結びつきを感じとって音楽表現してきた。器楽アンサンブルでも器楽の特徴を生かし、ハーモニーの響きを感じさせる。
アンサンブルとしての音域の広さを感じ、クラス全体でハーモニーの美しさを共有しあいたい。

9 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①リコーダーの音色や奏法の特徴に関心をもち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	①音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、リコーダーの音色や奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	①リコーダーの音色や奏法の特徴を生かした音楽表現をするために必要な器楽の技能（奏法、呼吸法、姿勢など）を身に付け、創造的に表している。
②リコーダーアンサンブルの特徴に関心をもち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	②音楽を形づくっている要素（同上）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、リコーダーアンサンブルによる器楽の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	②リコーダーアンサンブルによる器楽の特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、創造的に表している。

10 指導と評価の計画（16時間扱い）

時	学習内容・学習活動	評価規準・評価方法
第1時	リコーダーの構え方、吹き方・音階練習、「Air」の演奏	音楽への関心・意欲・態度①
第2時	「野ばら」「ぶんぶん」「静かな湖畔」の演奏	音楽への関心・意欲・態度①
第3時	第2時の復習、「山の音楽家」「Jupiter」の演奏	音楽への関心・意欲・態度①
第4時	「Jupiter」復習、「愛のあいさつ」運指の説明	音楽への関心・意欲・態度②
第5時	「愛のあいさつ」の演奏、○「さんぽ」運指の説明	音楽への関心・意欲・態度②
第6時	「さんぽ」の演奏	音楽への関心・意欲・態度①
第7時	アンサンブルテストの曲・グループ・パート決め、演奏	音楽への関心・意欲・態度②
第8時	パート・グループ練習・演奏、曲想について	音楽表現の創意工夫①
第9時	パート・グループ練習・演奏	創意工夫②、技能②
第10時	アンサンブルテスト・発表会	音楽表現の技能②
第11時	テナー・バスリコーダーを吹く・「フィンランディア」の演奏	音楽への関心・意欲・態度① 音楽表現の技能①
第12時	「フィンランディア」の演奏・「ヒ・コ・ラ・ス・イ・ッ」の説明	音楽への関心・意欲・態度①
第13時	「ヒ・コ・ラ・ス・イ・ッ」の演奏、グループ・曲・パート決め、演奏	関・意・態②、創意工夫②
第14時	アンサンブルテストの練習・演奏	音楽表現の創意工夫①
第15時	アンサンブルテストの練習・演奏	音楽表現の創意工夫①
第16時	アンサンブルテスト・発表会	音楽表現の技能②

1.1 本時の指導（第11時）

（1）目標

テナー・バスリコーダーを体験し、音色や奏法の特徴に関心を持たせ、アンサンブルを主体的に取り組む。

（2）展開

	学習内容・学習活動	指導上の留意点 ◆評価規準【評価方法】
導入 15分	・あいさつ ・本時の目標確認 ・ロングトーン ・音階練習（ハ、ヘ、ト長調） ・既習曲の復習	・意識づけさせる。 ・一定量で息を長く保たせる。 ・運指を確実にさせる。 ・他のパートを聴き、アンサンブルの響きを感じさせる。
展開 33分	・テナー・バスリコーダーを体験し、音色の特徴を感じ取る。 ・音階練習する事により、奏法の特徴を知る。 ・グループ毎に四重奏「フィンランディア」を演奏する。	・ソプラノ、アルトリコーダーの音色の違いを感じさせる。 ・穴の大きさ、間隔、息使いを認識させる。 ・奏法の特徴を気付かせる。 ・音程に気付かせ、運指の違いを確実に覚えさせる。 ・机間巡視をし、個々の指導をする。 ◆音楽への関心・意欲・態度① 【リコーダーの奏法の特徴に関心を持ち、主体的に取り組んでいるか】
まとめ 7分	・後片づけ ・次回の予告	・次回は「フィンランディア」の合奏を目指し、ハーモニーの響きを感じ取る学習を行う。

（3）本時の評価

評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

〔観察〕 四重奏を演奏する場面において、自らリコーダーの特徴を生かして演奏したり、アンサンブルを主体的に取り組んでいるか。

評価において（C）と判断される生徒への手だて

リコーダーの音色や奏法の特徴に関心が持てるよう、机間巡視で生徒の様子を見て、個々の指導をする。

おわりに

生徒は、小・中学校時代にソプラノリコーダー・アルトリコーダーの学習経験があるため、高等学校では更なる高度なアンサンブルが出来ると思い、過去の勤務校ではリコーダーを扱ってきた。前任校までは、アルトリコーダーアンサンブル、または、ソプラノリコーダー・アルトリコーダーのアンサンブルを行ってきたが、本校では、私自身初めて、テナーリコーダー・バスリコーダーを含めた4声部によるアンサンブルを試みた。生徒とともに取り組みたい曲が多くあり、選曲にも悩んだ。生徒にとって親しみのある曲を選んでいるが、その場合は編曲にも考慮しなければならない。初年度には、「フィンランディア」を初めから手掛けた為、戸惑う生徒が多かった。SAからSATBの四重奏になる時の選曲を再考する必要がある。今年度は「木星」四重奏をやり展開出来たので、さらに充実した取り組みが出来るような選曲を心懸けたい。

本校は、55分2時間続きの授業であり、生徒を飽きさせない展開を常に考えなければならない。学校が違えば生徒も違う。教師の進め方次第で生徒は変わってくる。

リコーダーアンサンブル曲集を見ていると、ギターや打楽器を含めたアンサンブル曲が数多くあり、教材として今後取り入れたいと思う。リコーダーアンサンブルをすることにより、苦手意識を持っていた生徒が積極的に練習し、アンサンブルを楽しんでいた。また、ハーモニーの響きを感じ、どのように演奏するか考え表現している姿が見られた。今後も、その場にいる生徒とハーモニーの美しさを共有していきたいと思う。

今回の研究は、1年生を対象に行ったが、2年生でも四重奏を展開している。何曲か候補曲を挙げ、その中から選曲、グループ作りをし、アンサンブルテストに向け練習している。2年目なので、特徴も理解し、生徒達で音楽表現を工夫し、アンサンブルを楽しんでいる。また、現2年生が1年生最後に自由発表を行った際、リコーダーアンサンブルを演奏したグループがいくつかあった。その時も、積極的に練習し、音楽表現について工夫していた。

2年生、アンサンブルテストの感想（一部）

- ・バスリコーダーが加わることで、音の厚さ・安心感を感じる。
- ・昨年よりも他パートの音を聴け、ハーモニーを感じれた。
- ・発音に気を付け、昨年より音が出るようになった。
- ・息を合わせるのが難しいが、独奏よりアンサンブルが楽しい。

現在も音楽室に入るなり、リコーダーを吹いている生徒がいる。自由発表に向け、テナーリコーダー・バスリコーダーを含めたアンサンブルに取り組もうと、昼休みに練習している生徒もいる。リコーダーだけでなく、音楽が楽しいと思ってくれるよう、これからも音楽が好きな生徒を育てられるよう、教材研究に時間をかけていきたい。

地域柄、本校では、お囃子で笛を吹いている生徒がいる。その生徒がリコーダーを吹くと、タンギング・アーティキュレーションが難しいようで、ほとんどレガート奏法で吹いている。舌の使い方に時間をかけて指導するよう心懸けている。

生徒のリコーダーを確認してみると、メーカーはバラバラである。同じメーカーで揃えれば音色もピッチも合う。しかし、小・中学校で購入しているメーカーは学校それぞれで、音色の為に、同じメーカーのリコーダーを揃える理由で、再度購入することは難しい。メーカーが揃っていないくても、チューニングにこだわり、アンサンブルを楽しむことも出来る。しかし、微妙なピッチで、アンサンブルをしているグループもある。メーカーを揃えるか、今ある楽器で演奏するか悩むが、私は、なるべく保護者の負担を軽減する理由から、今ある楽器で授業展開している。(本当は揃えたいですが)

最後に、今回、このような機会を与えて下さったことに心から感謝いたします。最後に、前指導課指導主事の〇〇先生、現指導課指導主事の〇〇先生、教科指導員の県立〇〇高校の〇〇〇〇〇先生、研究員の〇〇先生、〇〇先生、多くの方々にご指導を頂きお礼を申し上げます。

* 参考文献

- ・教育出版 RECORDER BOOK <高音 リコーダー ブック>
- ・教育出版 高校生のリコーダー・ブック
- ・教育出版 New Recorder Library
- ・教育芸術社 高校生の音楽1
- ・音楽の友社 ニュー・リコーダー・アンサンブル イエスタディ・ワンス・モア